

7、2 2 現場検証報告書 (共に生きる社会を)



2017年7月25日作成

特定非営利活動法人わっこ自立福祉会

6月24日大久保五男（76歳）さんが上田市天神2丁目のしなの鉄道踏切線路内で列車にはねられ死亡した。大久保さんは視野が欠ける視神経萎縮の視覚障がいを持ち当日も御代田町の病院に3ヶ月に一回の受診をするために白杖を持ちいつもの道を上田駅にむかって歩いていたと思われる。ところが駅とかけ離れた場所での事故（本年3月27日に開通した上田公園駐車場から信濃鉄道踏切を渡り、アリオ駐車場、上田市交流文化センター横を通り堤防道路につながる新しく出来た道路）であった。

生前、大久保さんは古船橋を渡り、玉姫殿の前を通り上田駅に向かう、慣れた道だった。なぜこのような事故が起きたのか検証を7月22日、事故現場で大久保さんが行動したと思われる軌跡をたどり行った。

参加者は長野県視覚障害者協会に所属する3名の視覚障がい者とわっこ自立福祉会に所属する4名の車いす障がい者、介助者併せて14名で行った。

二度とこのような事故が起きないように検証の結果が生かされるように望みます。心より大久保さんの御冥福をお祈りします。

1, もっとも危険と思われる箇所

上田公園駐車場前信号



視覚障がいの人たちがもっとも危険で、混乱しやすい交差点として改善を早急に求めました。

- ①交差点が歩車分離になり歩行者に安全に渡れるようになっているが視覚障がい者に情報が伝わらない。
- ②歩車分離の案内があるがどこにあるか、どのように使用出来るか情報が伝わらない。

- ③写真の歩行者用のボタン装置にブロックがない。場所が解らない。(場所を知らせる音声案内があるが使用できない状態になっている。)
- ④歩車分離で一斉に音声が鳴るので方向が判読できない。(アリオ、警察署前の音声は鳥の鳴き声の案内が一方方向になっている。音声案内が無いところでは車の動きで判断している。)
- ⑤交差点を横断するとき視覚障がい者に安全に横断できるようにエスコートゾーンが設置の必要性。(別紙参照)

2、公園前の道路が3月27日に開設したが情報が伝わっていなかった可能性がある。

- ①新しく道が出来たり建物が出来たときの情報提供のあり方の検討が必要。

3、踏切内の点字ブロックの設置

- ① 大久保さんが事故にあった場所は踏切から線路を渡ったところで9：30頃軽井沢発長野行きのしなの鉄道快速列車にはねられた。



- ②踏切手前に点字ブロックがあるが踏切内に情報がない。
- ③公園前の交差点を混乱した状態で曲り、踏切内に入り、道路と間違えた可能性がある。視覚障がいの人たちは混乱した状態で、どこを通過していたか解らない状態では無かったかと指摘をしている。

4、踏切から上田市文化交流センター（サントミュージゼ）までの交差点

- ① 交差点が2箇所あるが音声案内がない。



②点字ブロックが堤防までつながっているが、サントミュージーゼへの案内がない。サントミュージーゼまで点字ブロックがあり玄関までの情報がないのは不自然。

5, 結論

今回の大久保さんの事故死の原因に、新しく出来た道路が視覚障害者に配慮された道路とはなっていない事が指摘されます。

国連の障害者権利条約の批准に伴い、障がい者基本法の改正、差別解消法の制定と国内法の整備が進みました。「障がいを持つ個人がどこで誰とどのように暮らすかは個人の権利として」認められ、共生社会の実現が求められています。今回の事故死が本当に共生社会の実現に向けて合理的配慮がされていたのかが問われています。二度とこのような事故が起きないように改善を要望します。私たちも今後とも検証を続けて行きたいと考えています。

特定非営利活動法人わっこ自立福祉会

〒386-1321

上田市保野830-1

E-mail jiritu@12ueda.ne.jp